

平成30年度 第1回志布志市総合教育会議 議事録

1 開催日時 平成30年7月17日(火)  
開会 午後2時00分 閉会 午後3時30分

2 場 所 志布志市役所 本庁2階 庁議室

3 報 告

- (1) 小中一貫教育の取組状況と今後について
- (2) 教育環境整備の現状と今後について
- (3) 個性を伸ばす教育について
- (4) 歴史のまちづくり事業の現状と課題について

4 協 議

5 出席者 (出席構成員)

志布志市長 下平晴行  
教育長 和田幸一郎  
教育委員 松原治美  
教育委員 飯野直子  
教育委員 島津陽亮  
教育委員 津町千代子

(事務局)

副市長	武石裕二
総務課長	山田勝大
総務課長補佐	黒石直也
教育総務課長	徳田弘美
教育総務課長補佐	坂元正知
教育総務課主幹兼施設係長	福元義仁
学校教育課長	谷口源太郎
学校教育課参事兼指導係長	福留健之
学校教育課参事兼指導主事	梶原 淳
学校教育課長補佐兼学校教育係長	江川一正

生涯学習課長	若松利広
生涯学習課長補佐	萩迫和彦
生涯学習課文化財管理室長	
兼埋蔵文化財係長	上田義明
生涯学習課文化財管理室	
主幹兼指定文化財係長	小村美義

## 5 会議の経過

午後2時00分 開会

### ○ 開会

【黒石総務課長補佐】 皆様、御起立ください。

ただいまから、平成30年度第1回志布志市総合教育会議を開催いたします。「よろしくお願ひいたします。」御着席ください。

本日は、御多用のところお集まりいただきましてありがとうございます。

それでは早速ですが、会次第にそつて進めさせていただきます。まず初めに、開会に当たりまして、下平晴行市長が挨拶を申し上げます。

### ○ 市長あいさつ

【下平市長】 本日は、御多用中にもかかわらず、平成30年度第1回志布志市総合教育会議に御出席をいただきまして誠にありがとうございます。

また、日頃から教育行政の推進につきまして、格別なる御理解と御協力を頂いておりますことに、改めて厚く御礼申し上げます。

さて、この総合教育会議につきましては、平成27年度から設置、開催して、これまで、学力向上、タブレット端末の活用、コミュニティ・スクール、小中一貫教育、鹿児島大学との連携、いじめ問題などについて、協議されてきたようでございます。

本日の総合教育会議は、市長就任以来、初めての会議でございますので、これまで協議されてきました議題や新しい議題を報告いただき、その報告を基に協議を行つていきたいと考えております。

総合教育会議で協議を行う中で、皆様からさまざまな現場の声を

お聞きしながら、市の教育施策に反映していきたいと考えております。

本日は十分に協議していただき、実りある総合教育会議にさせていただきます事をお願い申し上げます、私の挨拶といたします。

本日は、どうぞよろしくお願ひいたします。

【黒石総務課長補佐】 それでは、会次第3 報告に入りたいと思います。

まず、「1 小中一貫教育の取組状況と今後について」の報告をお願いします。

【谷口学校教育課長】 それでは、小中一貫教育の取組状況と今後について、今年度4月10日に伊崎田学園の開校式を行いまして、スタートしていますが、その後7月3日、12月18日、31年2月26日の3回の小中一貫教育推進協議会の中で、今後の教育をどうしていくか協議を進めていきます。詳細につきましては、担当の梶原の方から説明をさせます。

【梶原学校教育課参事】 それでは資料の1ページをご覧ください。資料に沿って説明いたします。まず、7月3日に第1回の小中一貫教育推進協議会を開催しました。主な内容として大きく5点あります。

まず1点目は、開校1年目の取組について学校の方から出していただき、その協議を重ねたところです。特に教員同士の相互乗り入れ授業、TT授業など現在取り組んでいるが、まだまだ課題があるということで積極的に取り組んでいきたいということでした。

2点目は、愛唱歌の進捗状況ということで、伊崎田学園の愛唱歌の作成に取り組んでいます。現在児童会、生徒会を中心に歌詞づくりを行っており、9月からは楽曲作りを始める予定で、12月には完成予定です。

3点目は、銀杏の木看板について、伊崎田中学校の校庭にあった銀杏の木を伐採して、現在新校舎建設に入っていますので、その銀杏の木を活用して何か出来ないかということで、伊崎田学園という名前が入った看板を作ったらどうかと協議会でも検討されました。

最低でも1年は乾燥させる必要があるということでしたが、開校式に間に合わせるには何か方法がないかということで模索している状況ですが、開校式に間に合わせていきたいと考えているところです。

4点目は、開校記念式典及び新校舎落成式について、4月に開校して開校式自体は4月に開催しましたが、新校舎が出来るということで、大規模な開校式典を開催したいと考えています。当初の計画では3月に開催する計画でいましたが、2月には新校舎での授業が可能になるということでしたので、そうであれば2月の土曜日に保護者や地域の方々が参加しやすい日を設定して開催してはどうかということでまとまっています。詳細の日程については今後決定していきたいと思います。

5点目は、学校から出た意見や要望です。1つ目が校内LAN環境、ネットワーク環境を一つにして欲しいと小中学校から出ていますが、現段階では難しいということで、共通にアクセスできるフォルダを設置したり、サーバーを設置したりして対応していきたいと考えています。2つ目は、小中学校に配置されている大型ディスプレイについて、ネットワークでの会議などが出来るようにシステムを構築して欲しいと要望がありました。これについては田之浦、潤ヶ野、森山小学校が定期的の実施している遠隔授業のシステムを利用すると可能になるため、それを応用して対応していく予定です。3つ目は、オープンキャンパスについて、いわゆる体験入学、学校説明会のようなものになります。これについて、一斉に同一の日に実施するのは難しいため、問い合わせがあり次第、個別に対応していきます。4つ目は現在志布志市で取り組んでいる事業の中で最先端となるモデル校のように取り組んではどうかということで、スマホやゲーム機の使用について、9時オフの徹底など地域、家庭と連携した取組を市のモデルとなるように取り組んでいったらどうかということで、今後力を入れていきたいと考えています。

今後の予定につきましては、資料1ページにありますように協議会を2回実施する予定です。

続きまして、資料の2ページになります。平成30年度の推進計画

ですが、これを基に進めています。先ほどもお伝えしましたが、3月に開校式典、新校舎落成式とありますが、これを2月に変更して実施することになっています。また工事関係の日程も併せて記載しています。

続きまして、資料3ページになります。本市における小中一貫型小中学校の可能性ということで記載しています。現在開校しています伊崎田学園は区分としては施設隣接型で、同一又は隣接敷地での小中一貫型小中学校として開校しています。他の中学校まで考えますと、すべて施設分離型でこのような人数の形態で見ていくことができます。このような形態をとっていかも含めて協議会で話を進めていく必要があります。

なお、小中一貫型小中学校とはどういうものかの説明を記載しています。

基本的に修業年数は現在の小中学校と同じです。教育課程については9か年を見通した教育課程を編成することになっています。その中で一貫教育の実施に必要な教育課程の特例を創設する必要があります。学校独自で9年間を見据えて特化した教育も実施することができます。組織については、学校ごとに校長を配置していて、伊崎田学園もこの形態です。兼務も可能です。また、学校ごとに職員組織があり小学校の教諭、中学校の教諭も配置しています。これが小中一貫型小中学校の特徴と思っています。

最後に、資料4、5ページになります。伊崎田学園の新校舎図を記載しています。別に新校舎の完成予想図がありますので、ご覧ください。

小中一貫教育の取組状況と今後についての報告は以上です。

**【黒石総務課長補佐】** 続きまして、「2 教育環境整備の現状と今後について」の報告をお願いします。

**【徳田教育総務課長】** 教育環境整備の現状と今後について説明します。資料の6ページをご覧ください。

志布志市の第2次総合振興計画においても、学校施設については

著しい老朽化への対応や全般的な事故防止の観点から、緊急度の高い建物について大規模改修等の整備を行うこととしています。また、小中学校のトイレの洋式化や屋外運動場の排水対策等も年次的に整備をしていくところです。詳細については福元施設係長から説明をします。

**【福元教育総務課施設係長】** それでは資料の6ページをご覧ください。まず、①校舎及び屋内運動場の耐震化改修について説明します。昭和56年以前に建築された校舎等について、すべて耐震化診断を行い、補強が必要と判定された施設の補強工事を行い、平成27年度に完了しています。また、耐震補強工事に併せて外壁落下防止、強化ガラス等への取替え等や非構造部材の耐震化を含む全面改修を行い、さらに老朽化した校舎等のリフォームを併せて行っています。資料の表については、平成27年度までの実績となります。

続いて、②校舎及び屋内運動場の老朽化改修について説明します。平成27年度までに補強工事及び全面改修工事が完了したことに伴い、耐震診断で耐震性有と診断されました老朽化した校舎等施設について、全面改修を国の補助を活用して行っています。資料6ページの下表が29年度までの実績及び30年度以降の計画となっています。30年度については、伊崎田小中一貫校が開校されることに伴い、両学校にある木造校舎の特別教室棟を取り壊し、両方の管理教室等から使える複合的な施設を整備する予定です。

資料の7ページをご覧ください。③トイレ洋式化改修について説明します。平成29年度末時点で小学校全体の洋式化が38.7%で、中学校全体の洋式化が28.9%、小中学校合わせて35.4%となっています。老朽化改修等に併せてトイレ棟の全面改修を行うことが多いですが、それ以外にも1台の便器を何人の生徒が使用するのかを割り出して、1台の便器を使用する人数が多い学校を優先的に平成33年度までに50%を目標に整備しています。

④各学校グラウンド改修について説明します。降雨時に水引きの悪いところや芝面と土面に大きな段差が生じているところが多いため、平成27年度から優先度の高い学校から段差解消、水勾配の

改善を目的とした表土の入替え工事を実施しています。今後も年次的に工事を行い、全ての学校の改修を行う計画です。また、それに併せて小学校においては周辺施設の整備や遊具の改修を行い、中学校においてはフェンス改修など屋外環境の改善を図っています。資料7ページの表は実績及び32年度までの計画となっています。

⑤プール周辺環境の整備について説明します。プール周辺のコンクリート等の除草対策がされていないところに蛇や害虫が発生し、児童生徒に危険が及ぶため、平成27年度から除草を行い、張りコンクリート及び遮熱塗装を行っています。今後も優先度の高い学校を優先して年次的に工事を行うことで、安全を確保していく計画です。

⑥各小学校遊具設備の改修について説明します。遊具施設について老朽化が進んでいるため、平成27年度に各小学校の全ての遊具について調査を行い、優先度の高いものから溶接補強及び塗装改修を行っています。今後も年次的に改修を行い、全ての遊具の改修を行う予定です。なお、老朽化の著しいもの、現在安全基準に適さないものについては撤去を行い、必要であれば新たな遊具の設置も検討していく計画です。

⑦各教室への空調機の設置について説明します。市内の各学校への空調機の設置については、現在全ての小中学校の図書室、パソコン室、保健室に設置完了済です。平成28年度から教職員の職場環境改善のために職員室、校長室、事務室に空調機の設置を行ってきています。今年度ではほぼ完了予定です。今後は児童、生徒の学習環境の改善を図るために普通教室への設置を検討していく必要があります。

教育環境整備の現状と今後についての報告は以上です。

【黒石総務課長補佐】 続きまして、「3 個性を伸ばす教育について」の報告をお願いします。

【谷口学校教育課長】 個性を伸ばす教育の全体構想が資料8ページに記載されています。教育振興計画に基づく個性を伸ばす教育の部分について、

具体的には幼児・児童・生徒一人ひとりにきめ細やかな支援を行うことで個性を伸ばすということにつなげていくために三つの教えがあります。詳細につきましては、担当の福留の方から説明をさせます。

【福留学校教育課参事兼指導係長】 それでは資料8ページをご覧ください。本市には本市に伝わるきらり輝く三つのおしえがあります。一つ目が「煮しめ」のおしえとして個性の伸長で、二つ目が「つけあげ」のおしえとして確かな変容、三つ目が「にぎりめし」のおしえとして感謝の心です。この三つの教えのいずれも個性を伸ばす教育につながっていくものでありますが、今回特に個性の伸長の部分について、本市の6つの重点施策のうちの1つである「能力を伸ばし、社会で自立する力をはぐくむ教育の推進」の内容について説明します。一つ目が「確かな学力」の定着です。これについては各種学力検査の分析、その結果に基づく授業改善を行っているところです。志布志市では授業モデルを作成して、授業モデルに基づいた授業を実施することで学力向上を図っているところです。また、学習機会の提供ということで志学教室や夏休み学習教室等も実施しています。他にも「そろえる」をキーワードにして幼稚園から中学校まで共通実践事項に取り組むことにより、学力の定着につなげていこうと考えています。二つ目は特別支援教育の推進です。特別支援学級もありますが、通常の学級にも支援を要する子どもたちがいます。そのような子どもたちに対して特別支援教育支援員を配置して個に応じた指導を行っています。教育相談員も配置して継続的な相談活動を行っています。また、障害に対する正しい認識と理解に基づく円滑な就学手続きを行うために教育相談等を行いながら就学手続きを保護者と一緒に行っています。また、一人一人の教育的ニーズに応える指導・支援を合理的配慮と言いますが、各学校での子どもたちがどのようなニーズを持っているか、保護者と一緒に考えながら配慮を行っているところです。三つ目は幼児教育の推進です。幼保小連携協議会を年2回実施しています。連携の中でどのように小学校に円滑に接続していくのか、



アプローチカリキュラムやスタートカリキュラムについて、協議会で共通理解を図っています。また、子育て手帳を作成して、各学校のPTAや地域の会合でも活用しています。4つ目に郷土教育の推進です。本市では毎年4月24日をしぶしの日としていますが、この日を中心に志布志の良さを児童・生徒に積極的に伝え、郷土教育を行っています。また、土曜体験広場、学校応援団等でも地域の良さを地域の方々と一緒に学ぶ機会をつくっています。郷土の先人に学ぶ活動、調査・見学活動にも取り組んでいるところです。5つ目は教育の情報化の推進です。ICT機器を効果的に活用しながら、分かりやすい授業に努めています。また、特別支援教育分野での非常に有効な方法として、合理的配慮に基づいた効果的なICT機器活用法を研究しているところです。また、情報モラル教育についても同時に充実させているところです。6つ目は社会の変化に対応した教育の推進で、大きく5つあります。1つ目が環境教育、2つ目がボランティア教育・福祉教育・キャリア教育で、特にキャリア教育は志を持って活躍している方の話を聞く機会を作ったり、職場体験活動を充実させているところです。3つ目が国際理解教育で、ALTの配置に加えて英語教育支援講師、英語教育専科加配教員を配置して充実させています。また、生涯学習課の事業として青少年海外研修も実施しています。4つ目が消費者教育・金融経済教育で、各学校で金融教育・租税教育の指定校による出前授業が実施されています。5つ目が主権者教育で、主体的に社会に参画して自立できる児童生徒の育成を目的に、授業でも取り組んでいます。また、児童会・生徒会における自治的活動については、児童生徒主体で行われるようお願いしています。各小中学校においては、地域の人材を活用しながら特色ある教育活動を行うよう推進しています。このことも子どもたちの個性を伸ばす教育につながっていくと考えています。以上で報告を終わります。

【黒石総務課長補佐】 続きまして、「4 歴史のまちづくりの現状と課題について」の報告をお願いします。

【若松生涯学習課長】 歴史のまちづくりの現状と課題について、市長の所信表明の中で、歴史のまちづくり事業を推進すると述べられたことを受けまして、事業について数回協議を行ったところです。総合教育会議が開催されるということで改めて歴史のまちづくり事業の現状と課題や方向性について報告を行い、市長の指示をいただきたいと思っています。資料9ページからになりますが、詳細については担当の小村係長から報告させます。

【小村生涯学習課文化財管理室主幹兼指定文化財係長】 資料9ページをお開きください。1 志布志麓庭園についてです。ご承知のとおり志布志麓庭園は志布志小学校のプール近くにありますが福山氏庭園、天水製茶近くにありますが天水氏庭園、麓駐車場近くにありますが平山氏庭園の3つが平成19年に国指定になっているものです。(1)現状と課題等についてですが、庭園ごとに説明します。福山氏庭園については庭園の本体となる主屋について、平成29年度から5年計画で保存修復のための解体調査工事を実施しています。今後、福山氏庭園の構成要素である庭園、土蔵、板倉等の整備計画等の策定の必要があります。天水氏庭園、平山氏庭園については今後公有化をしていく必要があります。(2)今後の対応・方向性ですが、福山氏庭園は平成30年度、なかえ本体解体工事、おもて屋根解体工事等を行う予定です。平成33年度には主屋の保存修復工事が終了するため、主屋の公開に向けて、ソフト面も含め準備を進める予定です。天水氏庭園については、所有者が市への売却を承諾していますので、今後公有化に向けて、文化庁の8割補助の国庫補助を活用する計画です。平山氏庭園については、期日は未定ですが、所有者の了解を得られれば8割の公有化を実施する予定です。

続きます。2 志布志城跡についてです。志布志小学校裏の内城跡、その隣の松尾城、志布志中学校周辺の高城跡、新城跡の4つで構成され、平成17年に国指定になっています。(1)現状と課題等については、主に内城についてで、平成27年度に史跡の公有化が終了したため、地域の方々から要望が出ていた斜面保護工事に

ついて、文化庁が承認した人家背後の斜面工事を平成 27 年度から平成 29 年度にかけて実施しました。平成 30 年度には、志布志小学校裏の斜面工事を計画していましたが、福山氏庭園の整備を優先させるため、一旦整備を休止し、福山氏庭園の主屋の整備が終了してから、再度志布志城跡の整備を再開する予定です。福山氏庭園の構成要素である庭園、土蔵、板倉等の整備を継続しながら事業を推進するには、財源確保等の課題が残ります。資料 10 ページをお開きください。(2)今後の対応・方向性ですが、財源確保の観点から生涯学習課が所管する社会教育・体育施設等の長寿命化対策など、事業の優先順位を考慮し、文化庁と協議を進めながら、事業計画の見直しも含め、今後検討したいと考えています。

続きまして、3 山中氏邸（商家資料館）についてです。(1)現状と課題等についてですが、平成 19 年度「商家資料館」基本設計を策定しましたが、補助事業がないため、財源のめどが立たず、一旦市長部局による歴史のまちづくり法の適用による整備を目指すことになりました。しかし、本市の状況は歴史のまちづくり法に該当する要件を満たしていない等の判断から、市長部局による整備を断念しています。平成 25 年度から生涯学習課で商家資料館活用検討委員会を再開し、その整備と活用方法について再度検討しました。その結果、整備にあたっては、費用の問題等から市民の理解を得られないとの結論に達し、当面は補修等を行いながら現状を維持し、活用を図っていくことになりました。県の地域振興事業での整備はできないか検討しましたが、平成 29 年 6 月に大隅地域振興局から地域振興事業での整備は困難であるとの回答があったことから、平成 30 年度においては、市費を投入して、畳交換や屋根修繕などの基礎的な整備を行う予定です。(2)今後の対応・方向性ですが、山中氏邸の本格整備については、整備に対する市民の理解を得るために、現状のままで積極的に活用し、観光ガイドの活動拠点施設や「志布志・千軒町」の様子が窺えるような商家資料館の機能を持たせた施設として、関係機関・団体等の意見等を十分伺いながら、市の一般財源あるいは起債等での整備を検

討していく予定です。以上で報告を終わります。

【黒石総務課長補佐】 続きまして、会次第4 協議に入りたいと思います。協議の進行については、総合教育会議設置要領第4条第4項の規定に基づき、市長が務めるようになっていきますので、下平市長よろしくお願いいたします。

【下平市長】 協議につきましては、先ほど報告されました議題について行いたいと思います。

それでは、まず、(1)小中一貫教育の取組状況と今後について、ご意見、ご質問はありませんか。

【下平市長】 小中一貫教育について、私の考え方を述べたいと思います。平成22年に議員として一般質問をしています。一貫校の特典としては、1点目は中1ギャップ、2点目が先生方の交流という一貫性だと思います。これは合併後に田之浦中、出水中が閉校になりましたが、閉校になるというのは財政面ではいいかもしれませんが、地域のためにはどうなのかと思って一般質問を行いました。現在出水中学校、田之浦中学校が閉校しています。学校の活用をと考えた場合、現在止まっている状況です。活用についてはこれからも考えられることだと思いますので、意見を出していただけだと思います。私の考え方は今話したとおりです。委員の皆さんのご意見をお聞きしたいと思います。

【松原教育委員】 小学校は別として、中学校は統合されるところが出てきて、そういう時期なのかなと思っていました。閉校についても十分検討された上での結果だったと思っています。そのような中、小中一貫の話が出てきて、先生の連携や中1ギャップもあって、今回一貫校がスタートしている状況ですが、これからも出てくるのかなと思っています。今までの流れからすると、市としては子どもたちが少なくなるという危機感から一番やりやすいところで今回開校につながったと思っています。今年から進めてきて4月からス

スタートしているわけですが、1年目で出てくるいろいろな課題について検討していく必要があると思いますが、今回の一貫校がうまくスタートできて結果を残してくると逆に小中一貫校が他の場所でも検討されるようになるのかなと思っています。そういう意味でも充実した形で進めていただきたいと思います。個人的には入校する子どもたちが伊崎田小学校から伊崎田中学校に進学する子どもたちだけでいいものだろうかと思います。本当に特化して実施しようとするのであれば、市内全域から通学できる学校になってもいいのではと個人的には思っています。いろいろ課題はあると思いますが、子どもたちの確保が出来るのではと思います。モデル校としてスタートしていますが、今後は他の学校にも広げていこうと教育委員会では考えているのではと思っています。是非成功させないといけないと思います。

【和田教育長】

現在、潤ヶ野小学校、田之浦小学校、森山小学校は特認校制度を行っています。これについては、ある特定の学校からは行けるようになっていきます。志布志、香月、安楽、通山、有明小学校から通学できるようになっており、学級減にならない、ある程度子どもが多い学校に限定して通学を認めている状況です。松原委員からモデル校として実施しているのであれば、多くの学校から通えるようにして子どもたちを確保する必要があるのではという意見がありました。分譲地を売り出して住宅の確保が出来ていると思いますが、その分譲地に住んでいる子どもたちを対象にするなど幅広く募集しようとする事は、今後の方向性としてどういう対応をすればいいのか考える良い機会ですので、市長の考えを教えてくださいたいと思います。

【下平市長】

1つの問題点として、個人的ですが、特認校制度ではタクシー送迎をしていると思いますが、希望による市内の通学校区以外への通学者については、個人負担で行っている状況だと思います。希望により伊崎田に通学できるように決めた場合、通学者には市で支援しなくていけなくなると思います。財政的な負担が出てく

ることになるのではと思っています。

【徳田教育総務課長】 特認校制度を実施している志布志地区ではタクシーで送迎しています。ただ、制度の規則の中では送迎をするという規定はありません。市長が言われた他の校区に希望して通学する場合は、原則として保護者送迎と規定はしていますが、特認校制度になった場合に市が送迎をしないといけないわけではありません。

【和田教育長】 現在、小規模3校については市が送迎を行っている形になっています。伊崎田学園を特認校にした場合は、規定は今のところありません。

【徳田教育総務課長】 市が送迎しないといけないということにはならないと思います。

【下平市長】 ならないけれども、特認校との兼ね合いが出てくる可能性があるということですね。

【和田教育長】 そうなります。

【下平市長】 そのあたりはどうなりますか。そのあたりを解決できれば、希望する学校に行くというのが個性を伸ばす1つの方法になるのではと思います。

【松原教育委員】 小学校から中学校に行く時に、希望する学校に行けることが今の時代に合っているのではと思います。そういった意味では伊崎田学園が広域的な学校になれば送迎を出来る家庭と出来ない家庭が出てくるという問題が出てくると思いますが、希望する生徒は行けるようにしてもいいのではないかと思います。

【飯野教育委員】 私は伊崎田出身ですが、伊崎田には保育園もあって保育園、小学校、中学校みんな一緒という状況で、転校生という形があまり

ありません。松原教育委員が言われるとおり、外部から来るということに対しての対応などを小さい頃から行っていたら、友達づくりもうまく出来るようになるのではと思います。伊崎田出身の生徒は高校に行ってから伸びる子とそうでない子の両極端だという意見が以前からあります。外部からいろいろな子が来るということは子どもたちにとって刺激になるのではと思います。

【下平市長】 本当の個性づくりというのは校長の教育に対する考え方によって異なってくるので、基本的には一緒かもしれませんが、学校によって異なると思います。学校それぞれの特色ある取組として実施してもらいたいと思います。

【松原教育委員】 今後も検討していければと思います。

【下平市長】 これは大事なことだと思います。

【和田教育長】 伊崎田学園がスタートして、今後いい形で展開しているとアピール出来れば、自然と意見が出てくるのではないかと思います。その段階で伊崎田学園に希望して行けるように検討できればと思います。

【飯野教育委員】 意見が出てきたらいいですね。

【下平市長】 そのようになるように小中一貫校を目指していければいいと思います。

小中一貫校については、以前から思いがありましたので、今回こういう形で取り組んでいくということはいいことだと思っています。一番大きな問題は中1ギャップだと思っています。

伊崎田学園は施設隣接型になりますよね。

【梶原学校教育課参事】 施設隣接型になります。伊崎田小・中学校は、学園校舎を建替える前から渡り廊下でつながっていました。厳密に言います

と施設一体型に近くなります。新校舎が出来て今からは施設一体型とも言えますが、スタートした時点では施設隣接型となっています。

【下平市長】 校舎が説明のあった形で出来上がるわけですね。

【梶原学校教育課参事】 小学校と中学校の間に建設され、両方から行き来が出来るようになります。

【松原教育委員】 2、3年前から想定して職員間でも交流を実施していますので、スムーズに進んでいると思います。

【和田教育長】 小中一貫校を希望してスタートして、地域も希望していますので、スムーズに進むと思います。

【島津教育委員】 伊崎田小学校、中学校のコミュニティスクールはどういう状況ですか。コミュニティスクールと小中一貫教育推進協議会との関係性はどのようなものですか。内容から考えると学校運営協議会で協議した方がいいのではないかと思います。他の学校にも小中一貫校を推進していくのであれば、小中一貫教育推進協議会では市全体の枠組みを考えるような協議を行っていくべきではないかと思っています。

【和田教育長】 学校運営協議会は小中一貫教育推進協議会とは別々実施しています。学校運営協議会の在り方を説明させます。

【福留学校教育課参事兼指導係長】 学校運営協議会については、伊崎田小学校では平成28年度から取組を始めています。平成29年度に伊崎田中学校も設置して、平成30年度は伊崎田学園として小・中学校の協議会が合併した形で始まっているところです。学校運営協議会については、地域と共にある学校づくりを目指して伊崎田学園として取り組んでいます。小中一貫教育推進協議会については、2年間



の取組ということで小中一貫教育を進めるにあたっての様々な取組について協議しているところです。

**【和田教育長】** 学校運営協議会は学校単位で行うことが前提だったのですが、文部科学省が小中一貫となった場合には学校運営協議会も一緒の組織で良いということであったので、伊崎田学園は一つの協議会となっています。小中一貫教育推進協議会は2年前から設立されている組織で小中一貫教育をどうやって進めていくのかを検討していく組織で、昨年度は6回実施して深めてきて、今年度はあと2回実施する予定です。小中一貫教育推進協議会に出席している方は学校運営協議会にも出席していますので、情報交換がうまく行われていると思っています。

**【松原教育委員】** 小中一貫教育推進協議会は今年度で終了して、学校運営協議会で行っていくということですか。

**【梶原学校教育課参事】** 伊崎田学園に関しては今年度で終了することになります。志布志市としてどうあるべきかについては、今後検討していくことになるのではないかと思います。

**【津町教育委員】** 伊崎田小・中学校の卒業生ですが、実際自分も昔を思い出すと小学生の時に隣に中学校があって、触れ合うまではなかったですが見かけたりするので先輩像を描くことができました。より密接に授業などで交流を進めていくのかなと楽しみにしているところです。小中一貫校がスタートしたということで、9年間を見通した授業の中身で具体的なものがあれば教えてください。

**【梶原学校教育課参事】** 9年間を見通した授業として特化しているものは、地域教育力日本一ということ掲げていますので、その中で9年間を通して地域の行事への関わり合いをもつということで、現在も実施していますが、伊崎田和紙づくりを計画的にやっていくことや、お茶が盛んということもありますので、茶を通した学習で地域と

連携していくことを予定しています。踊りなどの伝統行事なども学年に応じた取組として総合的な学習の中でやっていくなど、いろいろな取組を予定しています。実際はこれまで実施してきたことの延長になる予定ですが、9年間の中で計画的に取り組んでいく予定です。1つの例としては伊崎田相撲の化粧まわしづくりがありますが、これまでは放課後や昼休みに作っていましたが、総合的な学習の中で学校の行事として実施していく予定です。また、先生方の交流として理科の中学校の先生を小学校の方に籍を置いて、小学校の授業も行いながら中学校の授業も行っています。管理職の先生も週に1回情報交換会、研修を実施しています。スタートしたばかりですので、徐々に連携しながら9年間で子どもたちを育てていくという姿勢で取り組んでいます。

【下平市長】 小中一貫校の中でも小学生・中学生と違いがあると思いますが、連携した教育を実施する予定はありますか。

【梶原学校教育課参事】 伊崎田の場合、これまでも実施してきましたが、昨年度から始めたものとして運動会・体育大会を合同で開催するようになり、合同開催ですので練習も合同で行っています。また、数年前から音楽発表会も合同で実施しています。それ以外にも小学生の図工の時間に中学生が授業に出向いて教えたり、体育の水泳の授業で中学生が小学生に教えたりしています。今年度になってからは昼休み時間などに中学生が小学生に読み聞かせを行ったり、スケッチ大会で指導を行ったりしています。

【下平市長】 良い取組だと思います。

【下平市長】 続きまして、(2)教育環境整備の現状と今後について、ご意見、ご質問はありませんか。

【松原教育委員】 年次的に耐震化や大規模改修を進めていますが、改修した学校は明るくなっているように感じます。その中で気になるのは、21校ありますので難しいこととは思いますが、各校の修繕料の予算

を確保してもらえたらと思っています。遊具修繕など緊急的なものに対応できるように予算があれば、子どもの安全を守れるのではないかと思います。

【徳田教育総務課長】 毎年、学校要望調査を行っていますが、1校当たり15件近くの要望が全学校から提出されます。当然対応すべきですが難しいため、各施設の確認調査を行い、優先度、危険度の高い施設から予算を配分しているところです。松原教育委員からも意見が出されたように全てに対応できずに各学校に負担を強いている状況ではあります。少しでも学校の要望に応えられるように予算を確保したいと考えていますので、よろしくお願いします。

【松原教育委員】 是非よろしくお願いします。

【下平市長】 課長からもありましたように要望を出してもらい、優先度を持って対応していきたいと思います。特にどうしても必要なものについては予算を確保していきたいと思います。

【津町教育委員】 快適な学校生活をという中でトイレの洋式化について、限られた予算の中で対応していると思います。その中で平成33年度までに50%以上の洋式化率を達成すると資料にあります。これは学校の規模にもよると思いますが、充足している数値なのでしょうか。各家庭の普及率を考えると、もう少し率を上げる必要があるのではないかと思います。

【下平市長】 数値の捉え方はどうなっていますか。

【福元教育総務課施設係長】 合併当初は洋式化率0%でした。各学校に1個以上設置していくことから始めまして、平成24年度くらいまでに全学校に設置しました。その洋式率を上げていこうということで年次的に改修を行っていますが、その中で平成33年度末までに50%以上を目標として総合振興計画等にも掲げています。他の工事を

行う必要もあり、予算の範囲もありますので、平成33年度末までに50%以上を目標とします。中学校に関しては、女子生徒が他人の座ったところに座りたくないという意見などもあって、洋式化率については小学校を55%程度、中学校を45%程度、合計で50%を目標にしています。当然学校の規模によって児童数に対する便器の数も異なりますので、全学校調査を行い、1台の便器を何人の生徒が使用するのかを割り出して、1台の便器を使用する人数が多い学校をまず優先的に整備しています。平成33年度までを目標としていますが、各学校訪問の際に必要な数の増減などの情報収集を行うなどして要望調査を行っています。その中で全学校での50%以上を目標としています。

【下平市長】 学校からの要望はありませんか。

【福元教育総務課施設係長】 学校からの施設整備に関する要望はありますが、トイレ洋式化を要望する学校は少ない状況です。

【松原教育委員】 休み時間に不足する状況ではないということですか。

【福元教育総務課施設係長】 相談はありますが、年次的にトイレ洋式化を進めているということで要望してくる学校は少ない状況です。

【和田教育長】 洋式化にすると台数が減る問題が出てきます。

【福元教育総務課施設係長】 以前の和式ですと洋式の規格には狭いため、台数を2台から1台へとすることもあります。三角コーナーのところに三角形のタンクを設置することで、同じスペースで洋式化が図れるという省スペースタイプのものも出てきていますので、なるべく既存のスペースで洋式化をより安い金額で整備するよう努力しています。

【松原教育委員】 休み時間に不足しなければいいと思います。

【飯野教育委員】 空調機械の設置について、最近気温が高くなっていることから、普通教室への設置は前向きに検討できませんか。

【下平市長】 勉強しやすい教育環境を整備していきたいという考えを持っています。出来るだけ早めに取り組をしていきたいと考えています。

【松原教育委員】 廊下も全てオープンになっている学校がありますね。

【福元教育総務課施設係長】 蓬原小学校は廊下と教室はオープンになっていますが、図書館などは壁を設置して仕切っています。ただ、すべて壁を設置して仕切るとなると費用が必要になります。

【松原教育委員】 前向きに検討してもらいたいと思います。

【下平市長】 環境整備が一番大事だと思っていますので、しっかり調査研究していきます。

【下平市長】 続きまして、(3)個性を伸ばす教育について、ご意見、ご質問はありませんか。

【松原教育委員】 3、4年前から取り組んでいるものは形になっていると思いますが、全学校が「3つのおしえ」に沿って取り組んできた結果、同じように統一された形で推進されてきています。その中でも特別支援教育についてもニーズに応じて揃ってきていると思います。幼児教育についても幼保小連携を始めて3年目だと思いますが、小学校の出だしがスムーズになってきたと思います。特別支援教育も支援員を配置してもらっていますが、発達障害と思われる子どもが増えてきて支援が必要になっているように思います。現在うまくいっていると思いますので、継続できるようお願いします。本当にいろいろな施策が充実してきたと思います。特別支援学級の現況を説明してみたらどうですか。

【福留学校教育課参事兼指導係長】 特別支援学級については年々学級数が増えてきています。通常学級に通学する子どもたちへの支援のための特別支援員の配置を市費で行っています。例年11月頃、来年度に向けた要望調査を各学校に実施して必要人数を挙げてもらうようにしています。各学校の要望数に対応できてはいませんが、昨年度は21名を各学校に配置しています。学校によっては支援を要する子どもがかなりいるため、数の多い学校には多く配置するようにはしています。逆に必要な子どもがいるが少ない学校については、十分な配置が出来ていない状況でもあります。財政の厳しい現状ではありますが、今後も配置をお願い出来ればと思います。

【松原教育委員】 教育相談員については、4月から積極的に各学校を訪問してもらっています。学校で話をすると、熱心な方を配置してもらったという声をもらいます。頑張っていると思います。

【福留学校教育課参事兼指導係長】 おととしまでお願いしていました相談員が退職されて、昨年度は代わりの職員が見つかりませんでした。今年4月から相談員を採用しています。この相談員は養護学校の教諭経験者でもありますので、専門的な知識を要していて、各小中学校だけでなく、来年度入学してくる子どもたちのために幼稚園などにも出向いて、来年度4月に向けた入学に備えているところです。こちらでも財政的措置を継続してお願いできればと思います。

【下平市長】 通常学級に通学させている支援が必要な子どもたちへの支援ということですね。「ごっちゃませ」という支援方法を金沢で実施している方と話をしたことがあります。これは年齢に関係なく認知症の方や障がい者の方などを支援しているようで、病院で治らなかった方が2ヶ月で治ったという事例があったそうです。おそらく他の人を助ける中で、変化が出てくるのではないかと思います。是非こちらで講演をお願いしたいと考えていて、その前に施設に行ってみたいと思っています。教育環境も一緒ではないかと考え

ています。いろいろな人たちの中で活動することで、個性を伸ばすことにつながるのではと考えています。

【和田教育長】 市長が言われたことはノーマライゼーションの考え方で、同じ普通教室の中で障がいのある子どもと障がいのない子どもが助けたり助けられたりして、双方が伸びていくという環境が整備されているというものです。今もノーマライゼーションの考え方というのは同じ環境で生活していくということですが、多くなり過ぎると学校側も運営が難しくなっていく面もあります。ただ、保護者の要望も高いので、是非通常学級でという要望があった時には、受け入れのための施設を整備する必要があります。保護者が希望する以上、その要望に応える必要があるなど課題がたくさん出てきています。その要望だけに対応するわけにはいきませんし、保護者の要望は多岐にわたるようになっています。

【下平市長】 求められるものが多くあるため、100%というのは難しいところだと思います。

【和田教育長】 支援学校がいろいろある中で、通常学級でという要望があれば対応していかなければならないですので、難しい課題だと思います。ノーマライゼーションの考え方は基本的に大事にすべきことだと思います。

【下平市長】 続きまして、(4)歴史のまちづくり事業の現状と課題について、ご意見、ご質問はありませんか。

【松原教育委員】 なかなかこの事業は時間とお金がかかるものだと思います。素晴らしい材料はあると思いますが、観光場所となるまでは時間がかかると思います。ただ、山城を見るツアーを計画すると参加する人が多いのも事実です。いろいろな所からツアーに参加されると思いますので、今後も周知などをきめ細やかに行っていく必要があると思います。

【下平市長】

私は移住・定住はなかなか大変だと思いますが、歴史文化財を活かしたまちづくりを行う中で、交流人口から移住・定住につなげていきたいと考えています。そう考えると歴史文化財をどう活かしていくか、いわゆる保護活用ですね、それを行うことで、先人たちが培ってきたものを大切にすることも含めて実施していきたいと思っています。平成2年に委員会を立ち上げて提言書を作成していますが、文化財を活かしながら、歴史のまちづくり法が平成20年に策定され、実施が難しくなっていますが、せめて計画書だけは作成しなくてはと考えています。担当課ではどう考えていますか。

【小村生涯学習課文化財管理室主幹兼指定文化財係長】 歴史のまちづくりに関する考え方については、実施段階にうつる段階で計画書づくりを実施しなくてはいけないと考えています。いずれ提示できると思います。

【下平市長】

いいものがいっぱいあると思っています。そのため博物館を建設しようとして検討した時期もあります。20億円必要という経費を先に提示したため、先に進まなくなりました。ただ、貴重な歴史的に価値のあるものがたくさんあると思っています。関心がないと売却してしまう可能性があります。保護していくためには資料館が必要になります。資料館があれば保存していくことができます。施設を整備することは難しいことですが、保存、保管できる施設は欲しいと思っています。国の補助事業を活用できればと思っています。

【島津教育委員】

日本遺産に登録しようという動きがあったと思うんですが、それはどうなりましたか。

【若松生涯学習課長】

日本遺産については30年度も申請しましたが、落選したということで、31年度も認定に向けて協議を続けていくところです。



【小村生涯学習課文化財管理室主幹兼指定文化財係長】 今回、不採択になったのは志布志麓庭園です。今年度も志布志麓の方を認定に向けて担当者会議を7月24日に開催されて、再申請する予定となっています。

【島津教育委員】 そういう動きがあるのであれば、もっとPRしてもいいと思います。

【若松生涯学習課長】 志布志だけでなく、出水麓など県内の麓を鹿児島県の麓ということで広域に麓地区を登録しようとしています。認定されたらPRを実施しようと協議会を立ち上げたりして、県全体で麓地区をPRしていく構想はあります。志布志市として志布志麓をどれだけPRしていくかということについては、バスツアー、見学会程度で終わっている状況です。おしゃか祭りでも天水氏庭園でイベントを実施していますので、公開の場を増やしていく必要はあると考えています。

【下平市長】 その他、何かありませんか。

私からですが、将棋をしている藤井七段がいると思いますが、彼は個性を伸ばすところを出ています。将棋だけでなく、その子どもが求めているものを伸ばすところだと聞いています。義務教育では実施できないとは思いますが、個性を伸ばす取組をしているものもいいと考えています。家庭教育が1番だと思いますので、それに加えて学校教育と連携したものがあってもいいのかなと思っています。現在、塾などがありますので、そことの兼ね合いはあると思いますが。七段をとるといった結果を求めることが良いというものではなく、個性を伸ばす教育で能力を最大限に伸ばすことも大事かなと考えています。

【徳田教育総務課長】 藤井七段は名古屋大学教育学部附属中学校に通っていたようです。国立学校では唯一の併設型中高一貫校です。

【下平市長】 その学校ではなく、別に通っていたところがあったと思います。

世界的なものだったと思います。

【事務局】 モンテソーリ教育だと思います。

【島津教育委員】 給食費の無償化についてですが、今後はどうなりますか。

【下平市長】 給食費の無償化については、来年度取り組んでいきたいと思っています。志布志市では医療費助成については18歳まで対応していますので、それと併せて実施していきたいと思っています。また、クーラー設置といった環境整備にも取り組んでいきたいと思っています。

○ 閉会

【黒石総務課長補佐】 それでは、皆さん御起立ください。

これをもちまして、平成30年度第1回志布志市総合教育会議を終了させていただきます。

午後3時30分 閉会

会議録署名

志布志市長 下平晴行

教育長 和田幸一郎

教育委員 松原治美

教育委員 飯野直子

教育委員 島津陽亮

教育委員 津町 千代子